

奈良モデル
住民と行政（県・市町村）がタイアップ！

猫トラブル^{ゼロ}0プロジェクト

奈良県くらし創造部消費・生活安全課

猫トラブル^{ゼロ}0プロジェクトとは

奈良県の現状

県

毎年多くの猫が収容・殺処分となる

猫の殺処分数を減らしたい

市町村

猫による生活環境被害が増加

地域の生活環境被害を改善したい



猫によるトラブルをなくすための

県と市町村が連携・協働した取り組み

背景

(1)猫の高い繁殖力



猫は繁殖力が高く、特定の地域に密集すると、
どんどん数が増え、様々なトラブルが生じる！

(2)猫による生活環境被害・猫トラブル

県及び市町村への住民の声



背景

(3)平成30年度の猫の引取り数 **867頭**

・ 迷子の猫で元の飼い主が判明した猫 4頭 → すべて返還

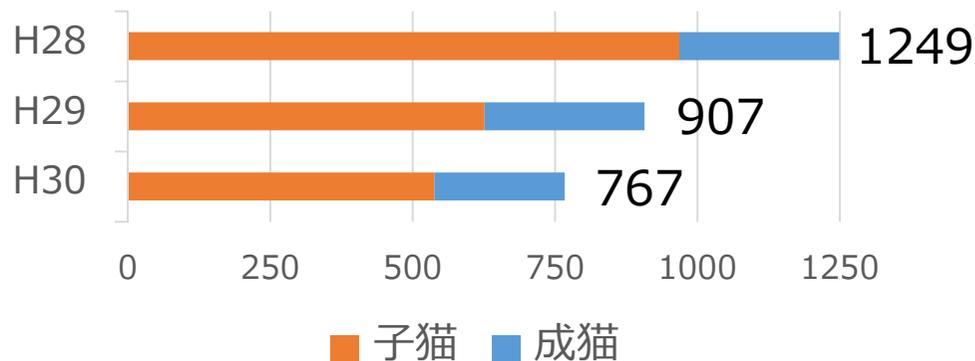
譲渡
審査

・ 健康で攻撃性のない猫 90頭 → すべて**譲渡**

・ 生まれたて、病気または攻撃性のある猫 767頭 → 殺処分

(引取り数と処分数は年度をまたぐため、一致せず)

殺処分数の推移



毎年、殺処分となる猫の**7割**が**子猫**

猫（特に子猫）の収容を減らすための施策が必要！

猫による生活環境被害への対策例

TNR活動

TNR活動とは

所有者不明猫が増えないように手術して元の場所に戻すこと



- 手術の効果
- ① 新たな子猫が生まれなくなる
 - ② 発情期の鳴き声や尿臭 等が減少



TNR後の猫は一代限りの命を全う



TNR活動の3つの問題点

(1)手術費用の負担

なぜ手術の費用を
被害者側が負担するのか！



手術費用の助成金はないの？



どこにいったらいいの？

(2)手術場所（動物病院等）

野良猫の手術を受け入れていない病院も多く、
受け入れ可の病院でも受け入れ頭数に限界がある（通常、1日3頭程度）



(3)計画性

猫は繁殖力が高く、計画的に一齐に手術を行わなければ、猫の数は減らない



行政が不満や苦情の矛先に



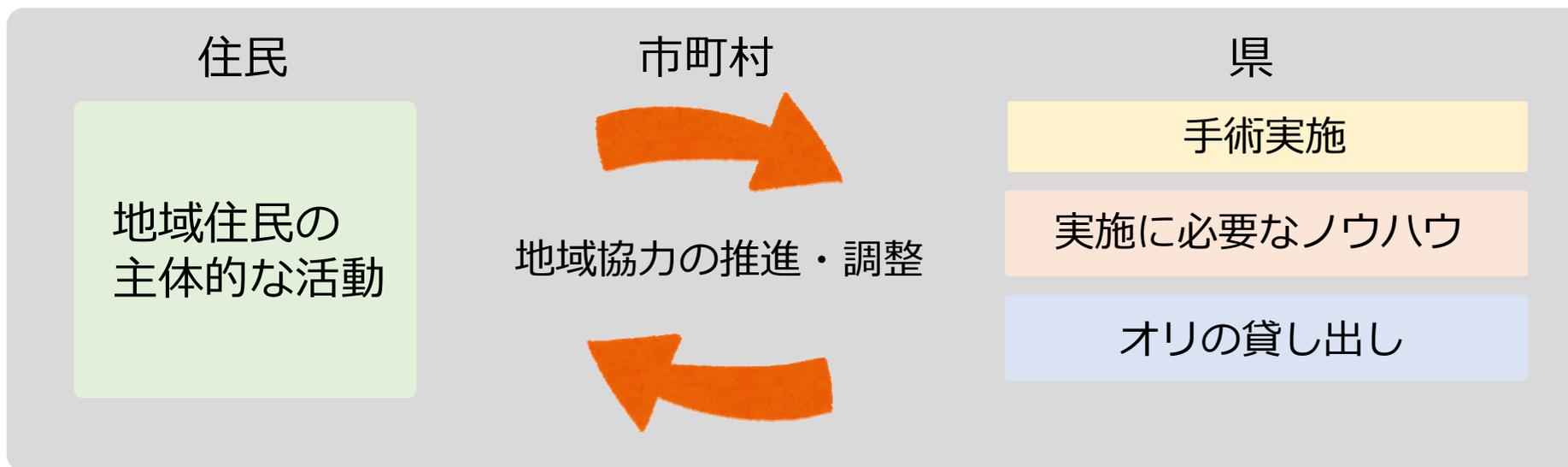
奈良県版 TNR事業の特徴

(1) 県が手術を実施



(2) 地域に応じた県・市町村連携

住民のTNR活動を市町村と県が連携して支援



官民一体となった生活環境被害対策

市町村のメリット

生活環境被害・住民トラブル対策

猫による生活環境被害の低減



住民からの苦情減少



地域満足度



平成30年度 予算事業化

(1)実施実績

- ・モデル市町村：橿原市
- ・手術実施頭数：68頭（9地区）

(2)実際に実施したA地区の様子

実施前

- ・年に数回子猫が生まれ、猫の数がどんどん増えていた
- ・糞尿、悪臭、農作物の被害、鳴き声の**苦情**あり



次々と生まれる子猫

↓ **36頭**にTNRを実施

実施後

- ・新たな子猫の増加は確認されていない
- ・糞尿、悪臭、農作物被害、鳴き声の**苦情**は**減少**



現在の状況

地域住民の生活環境被害が軽減！

令和元年度の取り組み

所有者不明猫TNRモデル拡大事業

モデル市町村

H30年度

1市
橿原市

拡大

R元年度

6市町

大和高田市、橿原市
桜井市、生駒市
宇陀市、三宅町

課題

モデル拡大事業を踏まえ、全県展開へ

- 県・市町村連携による地域住民の理解・協力の確保
- 民間の施設・人材（獣医師等）の連携・協力の確保

